

1月20日「帝塚山T I E S、及びI T関連施設見学会」報告

今回の行事は昨年、11月25日に実施しました、著作権セミナー「テーマ：学校現場における著作権について」の講師の有限責任中間法人日本著作権教育研究会の内田弘二氏のご紹介により実現しました。

当初の予定では教材作成セミナー参加者による授業実践発表会兼報告会を予定していましたが、参加者のほとんどが時期的に忙しく、また、どの学校も施設的にも実施するには難しい状況で、急遽先進的取り組みを学ぶという研修に切り替えた。

帝塚山大学では昭和62年の経済学部設置から、男女共学になりましたが、この時からコンピュータの教育利用が大学教育の大きな柱となっていたとのことです。当初は大規模な大型コンピュータを設置してタイムシェアリングで使用しておられたようですが、現在ではインターネット接続された1200台のパソコンが教育に活用されています。学生数は約5000人。

空き教室のパソコン利用は自由で、院生は一人一台のパソコンが提供されています。

帝塚山T I E Sシステムは7年前から、経済学部で始められた、学生の理解に合ったテキストを作成することを目的に経済学部の教員が自発的に集まって開始されたものです。

その目的は、大学の大衆化に伴う次の3つの課題の克服です。

- 1．学生の学力低下に対応した体系的な学習支援
- 2．学生の自立的な学習を実現させる学習支援
- 3．教育内容の豊富化を実現する教育支援

また帝塚山大学のこの取り組みが平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）」に採択されています。これまでの大学教育の改善に資する継続的な様々な取り組みが評価されたようです。

現在このT I E Sには、33大学が参加し、文系中心の18分野、約6000もの講義内容等が登録されています。それぞれにアクセスレベルが設定されており、一部は一般にも公開されています。また、講義内容等の登録は、ブラウザ上からも可能で、パワーポイント等のファイルのみならず、U S B 接続の小型カメラを付けただけで、その写った映像を登録できるというシステムです。

U R L は <http://www.tiesnet.jp/>

ブラウザの画面には、検索を経て、サーバーに保存されたストリーミング画像が再生され、講師の姿や音声を聞くことができ、同時に使用した教材が、それも手書きでの書き込みやマークもそのまま閲覧することができる優れたものです。この画面上からは、掲示板、

チャット等も利用可能なようです。授業中に理解出来なかったことも後で、繰り返し、復習等で利用することができ、再度講義を聴き理解しようとするこのような利用法が一番多いとのことでした。

このT I E Sシステムの維持管理に専任の職員が2名担当し、システムは仕様を外部の業者に発注して作成しており、P H Pとデータベースの連携によってコンテンツの作成、登録等が可能になっているようです。

登録等の作業が苦手な教員には、院生等のサポーターが支援する体制ができているようです。登録、ログインによるアクセスレベルの管理、検索、閲覧等のシステムは良くできていると思いました。大学の教員もこの登録や他の教員の講義の閲覧によって、刺激を受け教授法の改善が見られる効果もあるようです。今回の説明会ではその具体的な内容の紹介はありませんでしたが、最終的には著作権処理は最も重要になっているようでした。

本研究会ホームページ上での画像コンテンツや指導案他、教育のノウハウの共有化の試みの今後に大きな可能性を与えていただいた。我々のH Pでは、教員の利用を中心にした教科情報の共有化を推進していますが、生徒の活用もよく考えた大変すばらしいシステムでした。

最近、I T教育の有用性を確信しつつも、自分のスキルやその効果の限界を感じることもありましたが、この機会をえて、その可能性に改めて気づき、一つ前に進むことが出来たと実感できる説明会でした。

多忙の中、丁寧に対応、説明いただきました、帝塚山大学の皆様にお礼申し上げます。

(報告者 大阪府立柏原東高等学校 田中清隆)

今回は、委員の学習(見学)会を一般の方にもお知らせし、参加を呼びかける形で、実施した。センターテスト前日という厳しい日程もあって、参加者委員以外では3名であったが、内容的には充実したもので、得るものも大きかった。(金田)

当日の様子

